

# 宮城県考古学会連絡紙

第42号

2008年7月26日発行

事務局 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1  
東北学院大学文学部歴史学科 佐川研究室気付

## 平成20年度 宮城県考古学会総会・10周年記念大会報告

5月17日(土)・18日(日)に東北歴史博物館において、平成20年度(2008年度)宮城県考古学会総会・10周年記念大会が開催されました。第1日目の総会では進藤秋輝会長から開会の挨拶があり、つづいて議長団の選出により議長に高倉敏明氏、副議長に石川俊英氏が選出され、議事が行われました。

- 議案第1号 2007年度の事業報告について
- 議案第2号 2007年度収支決算報告・監査報告
- 議案第3号 2008年度の事業報告について
- 議案第4号 2008年度収支予算(案)
- 議案第5号 宮城県考古学会細則の改訂について
- 議案第6号 役員を選出について

以上の各議案について担当幹事から説明があり、審議の結果、議案第1号から6号まで承認されました。その後、10周年記念大会事業として、特集1「宮城県考古学—この10年の歩みと展望—」の時代区分による発表が行われました。

### 特集1 「宮城県考古学 - この10年の歩みと展望 - 」

- |        |    |    |     |
|--------|----|----|-----|
| ①総論    | 会長 | 進藤 | 秋輝  |
| ②旧石器時代 |    | 小野 | 章太郎 |
| ③縄文時代  |    | 大場 | 亜弥  |
| ④弥生時代  |    | 斎野 | 裕彦  |
| ⑤古墳時代  |    | 高橋 | 誠明  |
| ⑥古代    |    | 吾妻 | 俊典  |
| ⑦中世    |    | 川又 | 隆央  |
| ⑧近世    |    | 藤沢 | 敦   |

第2日目は、研究発表と特集2「城柵とは何か —考古学による定義—」で発表と討論が行われました。

- 研究発表 ①「押圧剥離実験報告 —ネガ面の研究—」 高橋 哲  
②「東北南部における縄文中期前半土偶の研究」 工藤やよい

### 特集2 「城柵とは何か 考古学による定義」

- ①趣旨説明 辻 秀人
- ②城柵官衙遺跡研究史 吾妻 俊典
- ③城柵の構造(各時代ごと) 佐藤 敏幸
- ④城柵とその比定遺跡 柳澤 和明
- ⑤城柵とその機能 —文献から— 熊谷 公男
- ⑥討論「城柵とは何か —考古学による定義—」

大会の終了後は、盛大に懇親会が行われました。

## 2008年度 事業計画

- 2008年度総会・10周年記念大会 5月17日(土)・18日(日)  
於：東北歴史博物館 共催：宮城県教育委員会  
17日(土) 総会・特集1「宮城県の考古学—この10年の歩みと展望—」  
18日(日) 研究発表・特集2「城柵とはなにか—考古学による定義—」
- 宮城県遺跡調査成果発表会 12月 会場未定  
共催：宮城県教育委員会(予定) 宮城県史跡整備市町村協議会(予定)  
事例発表10件 資料発表10件程度を予定
- 会誌『宮城考古学』の発行  
第10号 2008年5月17日発行  
特集「宮城県の考古学—この10年の歩みと展望—」を収録
- 連絡紙の発行  
年4回を予定(第42号～第45号)
- ホームページの運営
- 役員会など  
役員会・代表幹事会 年5回程度を予定  
各幹事会 随時開催
- 研究部会の活動  
旧石器部会、縄文部会、古墳・古代部会、中世考古学部会、阿武隈水系研究会

## 第6期(平成20・21年度)役員

(◎は代表幹事)

会長：辻 秀人 副会長：佐々木 和博 幹事長：長島 榮一  
総務：◎佐川 正敏、大河原 基典、渡部 紀、森田 賢司  
企画：◎芳賀 英実、吉田 桂、武田 健市、大平 聡、鈴木 隆、小原 一成、  
津田 優佳、山田 隆博  
会誌：◎菅野 智則、大場 亜弥、安達 訓仁、村上 裕次、石黒 伸一朗、川又 隆央  
連絡紙：◎茂木 好光、古川 一明、高橋 義行、主濱 光朗、佐藤 敏幸、千葉 直樹  
監事：進藤 秋輝、高倉 敏明

## 退任の挨拶

宮城考古学会前会長 進藤 秋輝

昨日の6月14日の岩手宮城内陸地震で栗原市を中心に山王考古館、温湯花山番所など被害もあったと聞く。心より、お見舞いを申し上げます。

去る5月17日、18日に東北歴史博物館で行われた本学会は創立10周年を迎える記念すべき発表会であった。各部会の『研究活動の回顧と展望』に続き、18日のシンポジウム『城柵とは何か』は昨今新たな城柵官衙遺跡が発見されているなかで、過去の学説を整理し、新たな展望を思索する基本的な発表・討論と感じた。長年この分野の仕事に関わった者として喜ばしい限りである。5月17日は奇しくも、10年前に初代会長桑原滋郎氏のもとに本学会が創立したその日であった。以降、二代目会長の須藤隆氏から会長を平成16年5月に引き継ぎ、2期4年間、会長職を勤めさせて頂いた。職務を全うできたかどうかは心もとない。佐々木副会長はじめ、役員、幹事会、会員の皆様のご協力の賜物である。連絡紙を借りて厚く御礼申し上げる次第である。

最近の大阪府でみられるように博物館を取り巻く環境もその存亡を問われるようになり、宮城県の博物館の有り方についても考えているこの頃である。

本学会の新たな会長に辻秀人会長が就任された。十年が過ぎ、新たな学会の活動を展開するに誠に相応しい体制が確立したと喜んでいる。研究活動を基本に据えた文化財の保護、質の良い遺跡の活用、一般市民の考古学への理解の確立など難しい問題も多々ありますが、会員の一人として、微力ながら本学会の隆盛に協力してゆきたいと考えています。

4年間どうもありがとうございました。

## 岩手・宮城内陸地震の災害情報提供

6月14日(土)に発生した岩手・宮城内陸地震により、国指定の重要文化財や史跡が被害を受けました。重要文化財では陸奥国分寺薬師堂(仙台市)、我妻家住宅(宮城県蔵王町)、双林寺所蔵の木造薬師如来坐像(宮城県栗原市)、双林寺所蔵の木造二天立像(宮城県栗原市)、旧登米高等尋常小学校校舎(宮城県登米市)、史跡では旧有壁宿本陣(宮城県栗原市)、山王囲遺跡(宮城県栗原市)、史跡・名勝では旧有備館および庭園(宮城県大崎市)が報道されています。そのほかにも被害などがありましたら、連絡紙担当に情報の提供をお願いします。

## 博物館等イベント情報

### 東北歴史博物館

#### 古代北方世界に生きた人びと 交流と交易

期間：6月28日(土)～8月24日(日)

#### 館長講座 テーマ「古代東北の官衙と寺院<全16回>」

##### 第7回「平安時代の多賀城政庁」

8月2日(土)

##### 第8回「多賀城・期の造瓦活動」

9月6日(土)

##### 第9回「平安時代の多賀城の整備『外郭線と城内道路』」

9月20日(土)

##### 第10回「平安時代の多賀城曹司の特徴」

9月27日(土)

##### 第11回「陸奥国府域の様相と多賀城廃寺」

10月18日(土)

##### 第12回「文献から見た国司館の変遷と発掘例」

11月1日(土)

### 仙台市地底の森ミュージアム

#### 特別企画展 陸奥国大戦争時代 - 蝦夷と移民 -

期間：7月18日(金)～9月15日(祝・月)

#### 記念講演会「律令国家と蝦夷」

講師：今泉隆雄(東北大学教授)

日時：8月30日(土) 14:00～16:00

場所：仙台市富沢市民センター第会議室

### 多賀城市教育委員会

#### 速報展「発掘された遺跡 平成19年度の調査成果」

期間：6月7日(土)～9月28日(日)

場所：多賀城史遊館展示室

#### 重要文化財指定10周年記念特別展 多賀城費 - いしづみが語るもの -

期間：6月28日(土)～9月28日(日)

場所：埋蔵文化財調査センター企画展示室

## 総務幹事会からのお知らせ

2008年度会費未納の会員の皆様、会費を早期に納入願います。2007年度以前の会費が未納の会員の方に対しましては、会費納入を確認次第、会誌10号をお送りいたします。ご理解とご協

力のほど、よろしくお願いたします。また、住所・電話番号(FAX・E-mail)・勤務先(所属校)などに変更がございましたら、下記事務局までご連絡願います。

☆☆☆ 宮城県考古学会刊行物 頒布案内 ☆☆☆

会誌『宮城考古学』第4号・第5号・第6号頒価各1,660円、第7～10号頒価2,660円、価格は送料込みです。購入を希望の方は、下記事務局あて郵便・電話・FAX等でお申し込みの上、郵便振替にて下記入会案内の口座に代金をお送りください。

問い合わせ・連絡先：総務幹事会 代表 佐川正敏（事務局）

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号 東北学院大学文学部佐川研究室

TEL：022-721-3245、FAX：022-264-6530

## 宮城県考古学会入会案内

当学会では、考古学や歴史を学んでいる方、興味関心がある方など会員を随時募集しています。入会申し込みは、氏名（フリガナ）・郵便番号・住所・電話番号（FAX、E-mail）、勤務先（学校名）の連絡先を明記の上、年会費（4,000円・学生等2,500円）を郵便振替にてお送りください。なお、通信欄には必ず「入会」とお書きください。

郵便振替口座 02210-1-41792 宮城県考古学会

## 会誌「宮城考古学」への投稿

<書式について>

- ①A4版横組（縦297mm×横210mm） 版面は縦233mm×148mmです。
- ②本文は10.5ポイント・明朝体で横書き・45字×35行。註・引用文献は9ポイント・明朝体で、横書き・47字×48行。ヘッダやフッタなどは記載しないでください
- ③論文：本文、挿図、写真、表などを含め、18ページ以内。
- ④研究ノート：試論、予察、着想などの短論文。12ページ以内。
- ⑤報告・速報：注目される発掘調査の報告や測量調査など。8ページ以内。
- ⑥資料紹介：8ページ以内。

なお、投稿原稿の実費負担の抜刷部数については、これまで明確な基準がなかったため、投稿者の皆様にご迷惑をおかけしてまいりましたが、抜刷部数は最大100部（進呈30部を含む。）までと致します。このほかについては、会誌投稿案内の通りです。

<連絡先>

宮城考古学会会誌幹事会 代表 菅野 智則

## 情報・寄稿などをお寄せ下さい！！

考古学に関する情報や寄稿、会員通信にも連絡紙を役立ててもらいたいと思います。また、連絡紙の内容や取り上げて欲しいこと、提言などご意見ご要望もお待ちしております。

なお、webサイトでは随時情報を募集しております。発掘調査情報、学会、イベントなど考古学に関する情報をお寄せください。

連絡先：個人情報につき連絡先削除 茂木好光 宛 TEL・FAX：※個人情報につき連絡先削除

E-mail miyagikouko@hotmail.co.jp（宮城県考古学会）

「宮城県考古学会webサイト」URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~mkouko/>